

本文をたて・よこに置き換えて作品化してもよい。

●自運〈創作〉部

〔出品委嘱（師範）〕

〈参考文 A〉

田中嶋舟会長選文・書（用紙 40 × 90cm以内、タテ・ヨコ自由）

この課題は約 21％に縮小しています。約 479％に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。（作品例）

与謝蕪村の俳句

『蕪村俳句集』（岩波文庫）

※この作品は 297 × 84 cm に書いています。

朝貞（あさがは） 木槿（むくげ） 行人（ゆくひと）
角力（すまい） 案山子（かかし） 烏帽子（えぼし）

月天心（つきこころ）と町（まち）と通り（とちり）
花火（はなび）と淀（よど）の御茶屋（ごちや）の夕月（ゆげ）夜（よ）
立ち（た）ち事（こと）一里（いちり）隔（へ）毛（も）に秋（あき）の峰（みね）寒（さ）し
花（はな）すきしと夜（よ）はなびけり武蔵（むさし）坊（ぼく）
女郎（ぢやうらう）花（はな）も茎（かき）ながら花（はな）が（が）ら
朝（あ）貞（さだ）にうすきゆかりの木槿（むくげ）哉（や）
名月（なづき）や夜（よ）は人（ひと）住（す）ぬ峰（みね）の茶屋（ちや）
去年（こぞ）うすき（うす）びし（し）いぞ秋（あき）の暮（くれ）
父母（ふぼ）のこ（こ）のみおもふ秋（あき）の（の）れ
門（かど）と出（で）れば我（われ）も行人（ぎやうじん）秋（あき）の（の）れ
夕露（ゆぐ）や伏見（ふし）の角力（かくりき）と（と）が（が）に
いな妻（つま）の綱（つな）う（う）つや（や）い（い）せの（の）う（う）み
秋（あき）去（さ）て（と）日（ひ）に（に）なりぬ梧（き）屋（や）花（はな）
秋（あき）の風（かぜ）書（か）き（き）は（は）ます城（しろ）に（に）けり
傳（つた）へん秋（あき）や（や）ち（ち）り（り）む此（こ）の（の）ほ（ほ）ろ（ろ）
相（あい）阿（あ）弥（や）の唐（から）履（ぞうり）起（お）すや大（だい）文（ぶん）字（じ）
涼（すず）さ（さ）や鐘（かね）を（を）け（け）な（な）く（く）か（か）ね（ね）の（の）声（こゑ）
名月（なづき）や高（たか）と（と）留（とど）ち（ち）る（る）他（た）の（の）う（う）み
庭（にわ）寒（さ）し角（かく）も（も）身（み）に（に）添（そ）ふ梧（き）木（も）哉（や）
秋（あき）の（の）れ（れ）の（の）こ（こ）わ（わ）し（し）て（て）行（ぎやう）雲（うん）山（さん）さ（さ）哉（や）
鳥（とり）羽（は）殿（でん）と（と）三（さん）六（ろく）騎（き）い（い）そ（そ）と（と）野（の）か（か）哉（や）
竹（たけ）の（の）音（おと）に（に）ほ（ほ）も（も）う（う）り（り）来（き）う（う）須（す）磨（ま）の（の）秋（あき）
ち（ち）ま（ま）圃（ぼ）の（の）抱（だ）獄（ごく）も（も）ら（ら）り（り）箱（はこ）根（ね）出（で）
ゆ（ゆ）ふ（ふ）ち（ち）ら（ら）や（や）筆（ふで）も（も）か（か）は（は）り（り）す（す）一（いっ）言（ごん）
夕（ゆふ）ぐ（ぐ）ら（ら）や（や）草（くさ）景（けい）と（と）つ（つ）む（む）む（む）ら（ら）雀（すずめ）
と（と）ら（ら）ふ（ふ）人（ひと）迷（まよ）い（い）また（また）銀（ぎん）河（が）三（さん）十（じゅう）尺（せき）
ゆ（ゆ）ふ（ふ）が（が）ほ（ほ）に（に）秋（あき）風（かぜ）そ（そ）と（と）み（み）を（を）く（く）川（がわ）
秋（あき）来（き）ぬと（と）念（ねん）を（を）す（す）と（と）行（ぎやう）う（う）く（く）と（と）あ（あ）り（り）な（な）
初（はつ）秋（あき）や（や）金（かね）所（ところ）の（の）灯（あかり）見（み）ゆ（ゆ）る（る）宵（よ）の（の）ほ（ほ）と（と）
冬（ふゆ）ち（ち）り（り）し（し）時（とき）雨（アメ）の（の）雲（うん）も（も）こ（こ）う（う）り（り）ぞ
初（はつ）し（し）る（る）れ（れ）眉（まゆ）に（に）烏（くろ）帽（ぼう）子（こ）の（の）寒（さ）哉（や）
蕪（う）村（むら）の（の）句（く）と（と）○（まる）○（まる）？（てん）□（かぎ）

臨書部参考古典・古筆

臨書部の参考となる古典・古筆の作品名をいくつか示しておきます。
果欄で取り上げられた作品もありますので、作品づくりに役立ててく
ださい。

かな	漢字楷書
本阿弥切	皇甫誕碑
曼殊院本古今和歌集	九成宮醴泉銘
高野切第三種	孔子廟堂碑
寸松庵色紙	孟法師碑
元永本古今和歌集下（抄）	雁塔聖教序
高野切第一種	褚遂良法帖帳集
関戸本古今和歌集	集字聖教序
粘葉本和漢朗詠集	趙孟頫集〔元〕（前後赤壁賦など）
	蘭亭十三跋

●自運〈創作〉部

〔出品委嘱（師範）〕

〈参考文 B〉

成田嵐石副会長選文・書（用紙 A3=約 29.7 × 42cm以内、タテ・ヨコ自由）

この課題は約 21％に縮小しています。約 476％に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。（作品例）

石川啄木の和歌

『現代名詩選（上）』（新潮文庫）より

本文は現代表記に改めています。

※この作品は 297 × 42 cm に書いています。

東海の小島の磯の白砂に
われ泣きぬく涙とたわむ
娘につたりちみだのうらす
一握の砂をふりて人を忘らす
何となく汽車に乗りたく思ふ人のみ
汽車をとりしにゆくふたなり
うすの娘ながらし停車場の
人みの中にたを靡（よ）かにゆ
やわかに柳（やなぎ）あおちる北（きた）上の
岸（きし）辺（へ）に見ゆけとくくく
秋立つは水（みづ）に（に）も（も）似（に）似（に）洗（あら）われ
愁（さ）み来（き）て丘（かみ）の（の）ぼ（ぼ）れ（れ）は（は）君（きみ）も（も）知（し）ら（ら）ぬ
鳥（とり）囀（さえず）り（り）赤（あ）き（き）波（な）の（の）実（み）
さいはらの眼（め）に（に）ち（ち）り（り）ま（ま）ら（ら）る（る）あ（あ）かり
ふびしと町（まち）に（に）あ（あ）ゆ（ゆ）み（み）に（に）き
あ（あ）の（の）世（よ）の（の）時（とき）と（と）。○（まる）○（まる）□（かぎ）

☆自運創作部・規定1部の選文・手本はこの形式ですが、

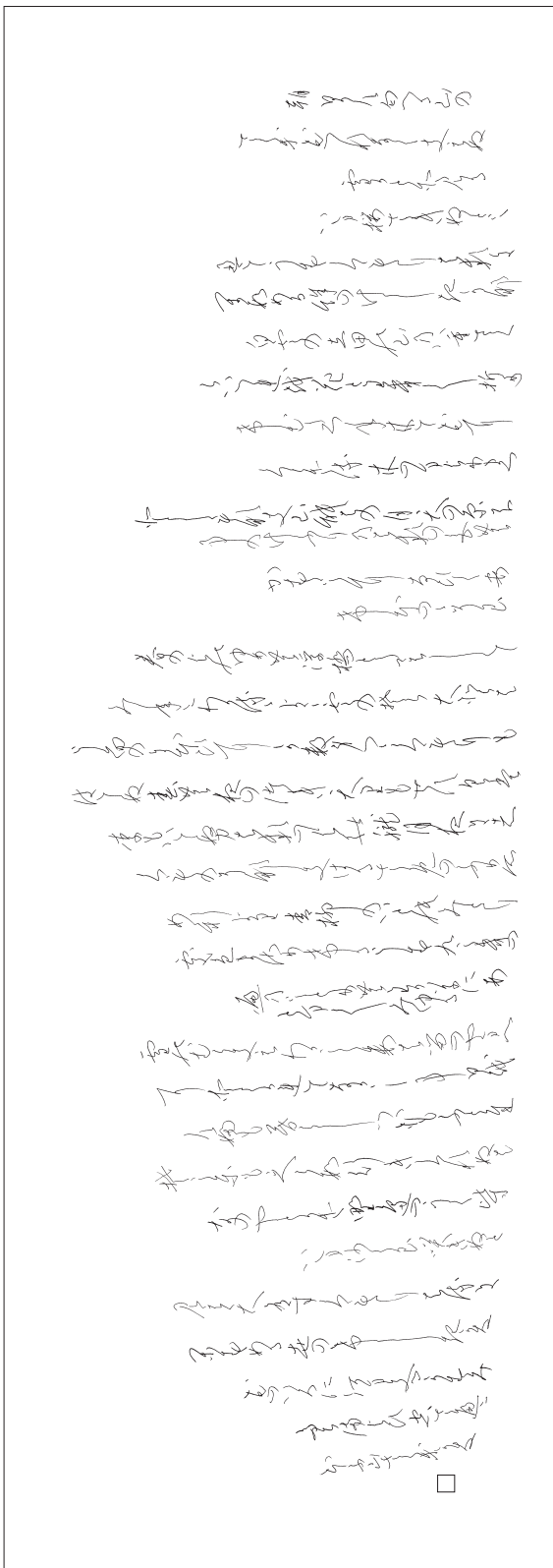
中一・泉流・常任理事・選文・書 (用紙 40 × 90cm 以内、タテ・ヨコ自由)
※この作品は 29.7 × 84cm に書いています。

＜参考文 C＞

〔出品委嘱 (師範)〕

部 創作 自運

『新古今和歌集』の歌



この課題は約 25% に縮小してあります。約 400% に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

- ① 朝日影にはへる山の桜花
つれなく消えぬ雪かどぞ見る
- ② いま桜咲きぬと見えて薄曇り
春に霞める世のけしきかな
- ③ 白雲の立田の山の八重桜
いづれを花と分きて折りけむ
- ④ 尋ね来て花にくらせる木の間より
待つとしもなき山の端の月
- ⑤ 天の原富士のけぶりの春の色の
霞になびくあけぼのの空
- ⑥ 春の夜の夢の浮橋とたえて
峰に別るる横雲の空
- ⑦ 大空は梅のにはひに霞みつ
曇りもはてぬ春の夜の月
- ⑧ 照りもせず曇りもはてぬ春の夜
おほる月夜にしくものぞなき
- ⑨ 春雨の降りそめしより青柳の
糸のみどりぞ色まさりける
- ⑩ 薄く濃き野辺のみどりの若草に
跡まで見ゆる雪のむら消え
- ⑪ わが心春の山辺にあくがれて
ながながし日をけふも暮らしつ
- ⑫ 思ふどころことも知らず行き暮れぬ
花の宿賃せ野辺の鶯
- ⑬ いま桜咲きぬと見えて薄曇り
春に霞める世のけしきかな
- ⑭ 花の色にあまぎる霞立ちまよひ
空さくにはふ山桜かな

※①～⑭ 『新古今和歌集上』
(角川ソフィア文庫) より

●規定 1 部
〔規定部四段く準師範〕

〈課題 D〉 渡辺 稔 常任理事選文・書
(用紙 26 × 68 cm、タテ・ヨコ自由)

郊外に来て誰でも
立派な大根が土にくい込み
太り切っているのを眺めてあらう
さかんなく葉っぱと
羽のように伸けし
はし切っているのは
何という快適な氣を起させてあらう

朝日は新らしい
屋根や屋根の上に
金箔のように輝いて居り
畑には百姓の姿はあり
露わな本立は鉄のように硬くなっている
それらの本立や林を透して
からがらとけし山の手の電車
ああ朝ごとに温かな食事を終え
大根畑とあらうらあらうき
百姓とは挨拶と交し
すぐが朝の魂に立ち立っている中と
ありあまる感謝の心持ちにならて行く
ばつと―た冬の朝晴れ
いずれの季節にも見られない
透明な立派な冬の大きな
ふよふよな景色は
自分によい信仰と力とを与えようのだ

室生犀星 詩 ○ ○ か く □

室生犀星「郊外」
『室生犀星・萩原朔太郎集』(筑摩書房)

〈課題 E〉 畔柳香風先生選文・書
(用紙 68 × 26cm以内、タテ・ヨコ自由)
※この作品は 68 × 26cmに書いています。

子供の絵

赤いろにふちどられた
大きい青い十字花が
つぎつぎに―ばい 宙に咲く
きれいな花ね 沢山沢山
ちがうよ おホシさんだよ お母さん
まん中をずっと線がよこぎって

遠く右の端に棒がたつ
ああ野の電線
ひしゃげたような哀れな家が
手前の左の隅っこに
そして細長い窓が出来その下は單ぼうぼう
坊やのおうちね
うん これがお父さんの窓
性急に余白が一面くろく塗りたくられる
晩だ 晩だ
ウインドロボウだ コウトウだ
なるほど なるほど
目玉をむいたでくのぼうが
前のわりに両手をぶらさげ
電柱のかげからひとつフラフラやって来る
くらくらい野の上を
星の花をくぐって

伊東 静雄の詩を ○ ○ か く □

伊藤静雄「子供の絵」
『日本の詩』(ほるぷ出版)

この課題は約28%に縮小しています。約356%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。
本文は現代表記に改めています。

●規定2部「規定部準初段」三段

〈課題 F〉 岩間鴻舟常任理事選文・書

(用紙B4判Ⅱ約36・4×25・7cm、**よこ**に使用)

どんよりとした海の感情 砂山にいきあげられた船々 波間でひどく揺られているのもある はるか遠方の沖から こちらをさしてむくむくともりあがり 押しよせてくる海の感情 何処からくるか この憂鬱な波のうねりは そこのしれないふかさをもって 此の大きな力はよ あゝ海は生きている！ 夜昼絶えず 渚にくだける此の波々のすばらしさ そこにすむ漁夫等々を思ふ	○ ○ か く □
---	-----------

本文は現代表記に改めてあります。

山村暮鳥「海の詩」

『山村暮鳥全詩集』（彌生書房）

この課題は約31%に縮小しています。約325%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

〈課題 G〉

田中麗秀常任理事選文・書

(用紙B4判Ⅱ約36・4×25・7cm、**たて**に使用)

夢はいつもかへつて行つた 山の麓のさびしい村に 水引草に風が立ち 草ひばりのうたひやまない しづまりかへつた午さがりの林道を うららかに青い空には陽がてり 火山は眠つてゐた —そして私は 見て来たものを 島々を 波を 岬を 日光月光を だれもきいてゐないと知りながら 語りつづけた…	○ ○ か く □
--	-----------

ヨコケイ線を、入れても入れなくてもよい。 午（ひる）さがり

立原道造「のちのおもひに」『立原道造詩集』（岩波書店）

この課題は約31%に縮小しています。約325%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

●規定3部「規定部4級〜1級」

(用紙A4判Ⅱ約29・7×21cm、たてに使用)

〈課題H〉

佐藤朝洋理事選文・書

春の、田舎の

大きな河をみるよろこび

そのよろこびを

ゆったりと雲のように

ほがらかに飽かずながして

それをまたよろこんでみている

○ ○ かく □

山村暮鳥「おなじく」『山村暮鳥全詩集』（彌生書房）

本文は一部を改行し、現代表記に改めています。

この課題は約38％に縮小しています。約263％に拡大するとはば原寸の大きさになります。

〈課題I〉

岩間鴻舟常任理事選文・書

あのうみは だれの海なの

そしてあの千鳥は

おう 子どもよ

そればかりは

きいてくれるな

自分もだれかに

きいてみよう

おもっていたんだ

○ ○ かく □

山村暮鳥「おなじく」『山村暮鳥全詩集』（彌生書房）

本文は一部を改行し、現代表記に改めています。

この課題は約38％に縮小しています。約263％に拡大するとはば原寸の大きさになります。

●規定4部「規定部10級・新規く5級」

(用紙B5判Ⅱ約25・7×18・2cm、たてに使用)

〈課題J〉

槌谷秋崩理事選文・書

一ところ 明るいのは
ぼたんであろう
そうだ ぼたんだ
星の月夜の
夜ふけだったな
○ ○ か く □

山村暮鳥「月」『日本詩人全集13』（新潮社）

本文は、現代表記に改めています。

この課題は約44％に縮小しています。約230％に拡大するとはほぼ原寸の大きさになります。

〈課題文K〉

河村秋妍理事選文・書

しずかにきたる
秋風の
西の海より吹きおこり
まいたちさわぐ
白雲の飛びて
行くえも見ゆるかな

○ ○ か く □

島崎藤村「秋風の歌」の一部『日本の名詩』（大和書房）

本文は現代表記に改め、一部をひらがな・漢字に変えて改行しています。

この課題は約44％に縮小しています。約230％に拡大するとはほぼ原寸の大きさになります。

●漢字1部「規定部準初段」師範

(用紙B5判Ⅱ約25・7×18・2cm、たてに使用)

〈選文自由〉

菊池智泉理事選文・書

〈参考文L〉

選文の時間のない方は、この「参考文」を選んでください。

銀臺金闌夕沈沈
獨宿相思在
翰林三五夜
中新月色二千里
外故人心渚
宮東面煙波
冷洛殿西頭
鐘漏深猶恐
清光不同
見江陵卑濕
足秋陰

白居易詩○○書□

白居易『八月十五日夜、禁中に独り直し、月に対して元九を憶ふ』

山田勝美著『中国名詩鑑賞辞典』(角川書店)

この参考文は約44%に縮小しています。約230%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

【注】この参考文を書く場合、①字体は

自由。ただし新字体・旧字体の混用は避けること。②楷書・行書・草書のいずれかの書体で統一して書き上げること。

▼用紙の使用はタテに。

●漢字2部「規定部10級・新規」1級

(用紙A5判Ⅱ約21×14・8cm、たてに使用)

〈選文自由〉

高橋南舟理事選文・書

〈参考文M〉

選文の時間のない方は、この「参考文」を選んでください。

一字千金品行方正
青雲之志氣宇壯大
千思万考古今無双

○○書□

この参考文は約51%に縮小しています。約195%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

銀臺金闌夕沈沈

獨宿相思在翰林

三五夜中新月色

二千里外故人心

渚宮東面煙波冷

浴殿西頭鐘漏深

猶恐清光不同見

江陵卑濕足秋陰

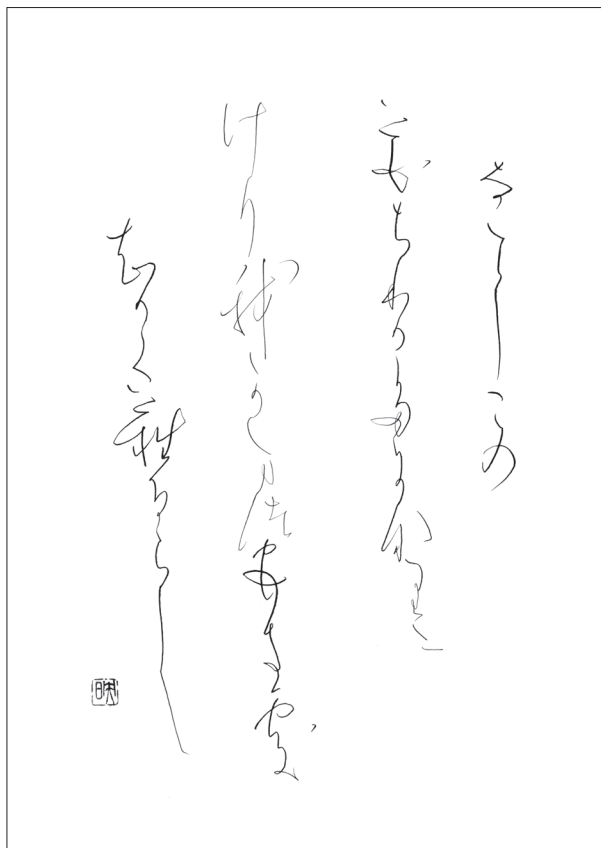
●かな1部「かな部初段」師範

〈選文自由〉

(用紙B5判Ⅱ約25・7×18・2cm、たてに使用)

〈参考文献N〉

三浦映泉常任理事選文・書



『後撰集』の和歌（読み人知らず）『かな墨場辞典 和歌編』（東京堂出版）より

なでしこはながた
撫子の花ちり方になりけり我がまつ秋ぞ近くなるらし

奈てしこの花ち利可多爾那里二けり我可万徒安支處知可く難るらし

この参考文献は約44％に縮小しています。約230％に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

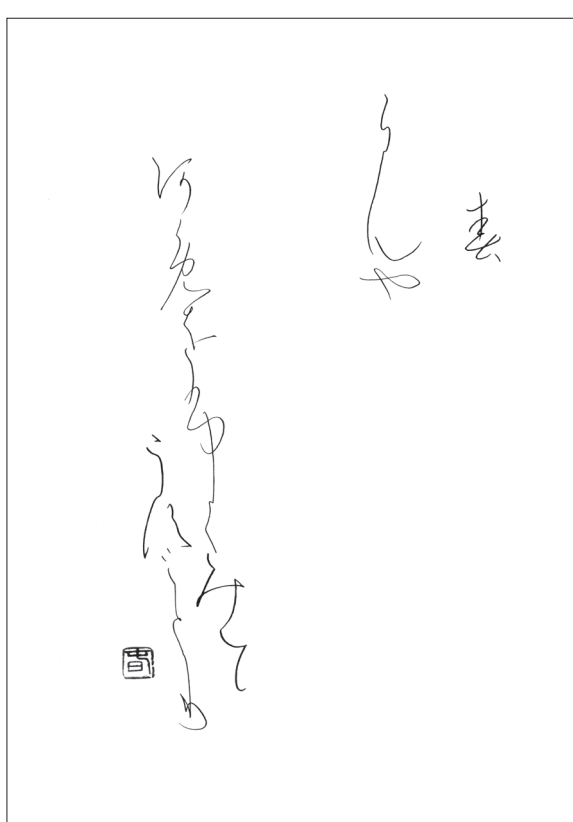
●かな2部「かな部4級」準初段

〈選文自由〉

(用紙A5判Ⅱ約21×14・8cm、たてに使用)

〈参考文献O〉

日高秀泉理事選文・書



杉田久女の俳句『かな墨場辞典 俳句編』（東京堂出版）より

しんらんあめ
春蘭や雨をふくみてうすみどり

春らんや阿免を布くみてう須三と利

この参考文献は約51％に縮小しています。約195％に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

【注】①かな1部・2部とも参考文献です。和歌・俳句・その他何を

書いてもかまいません。②かな作品風に仕上げてください。③参

考文を書く場合、漢字・かなの変換は自由です。かな変換の時に

は旧かな・新かなの混用をしないこと。とくに変体がない使用の際

に留意。④用紙の使用はタテに。着色は自由。

臨書したものを出品されるときは次のことを厳守して

ください。(なお、臨書での出品は1部に限ります。)

臨書作品の場合は、原本のコピーを添え、コピーの表

面のわかりやすいところに「古筆名と出品者名」を鉛

筆で記入し、一緒に提出のこと。

●手紙文1部「規定部準初段」師範

(用紙B5判またはB5判以下の便箋形式)

〈選文自由〉

小高桃果常任理事選文・書

たて書き2枚組み

〈参考文Q〉

暑中お見舞い申し上げます。

先日は季節のご挨拶を賜り、ありがとうございます。

またご丁寧におはがきまで頂戴いたしうけく

何でも拝見し、また手にとり読み返す。手書きの

おはがきは、夏の清涼剤ですね。

そう言えは、いつかペン字のおけいこを始められたと伺っています。たが、美し、一字にうっとりして、主人も

「一つのこととコツコツと続けて行くことができるのは、花恵さんの才能だね」と感心しております。

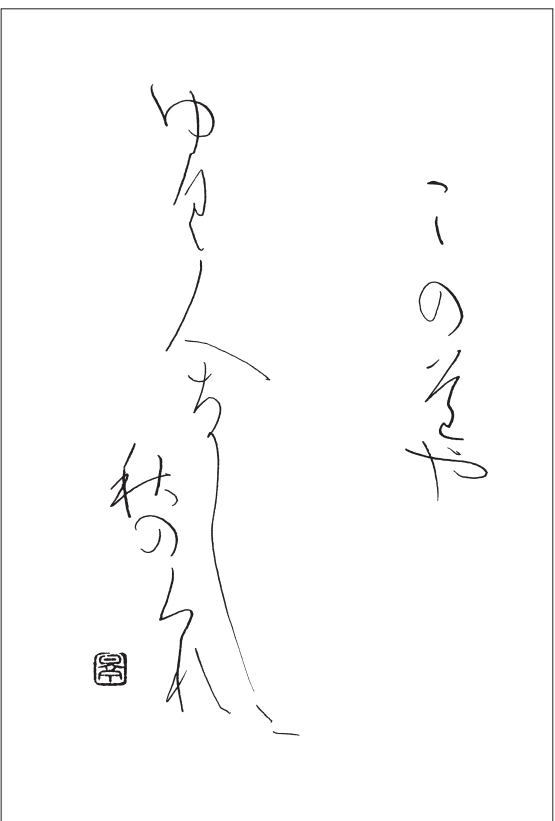
●かな3部「かな部10級・新規」5級

〈選文自由〉

(競書用紙Bを、たてに使用)

〈参考文P〉

手島景扇常任理事選文・書



松尾芭蕉の句「かな墨場辞典 俳句編」(東京堂出版)

此道^{このち}や行人^{ゆひん}なしに秋^{あき}の暮^{くれ}

この道やゆ具人奈し二秋のくれ

この参考文は約73%に縮小しています。約137%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

何やらひそかに名前の練習をしていらっしゃるようです。いつも私どもにも、のようなお心遣いをいただき、恐縮でございます。どうぞくれぐれは、お気軽におつき合いたさますようお願い申し上げます。

予報では、今夏もぐびい暑さが続くとのこと、くれぐれもお体をお大事になさいますよう。

まずは礼申しといたします。

七月八日

小林花恵様

山中孝子

参考文Q・Rは約33%に縮小しています。約302%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

〈選文自由〉

〈参考文 R〉

村松香雲理事選文・書

よこ書き1枚

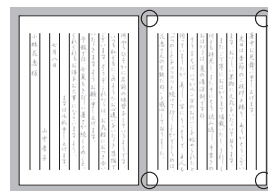
例年になく暑い夏を迎えておりますが、お変わりもなくお過ごしのこととお喜び申し上げます。
 ようやく職場の雰囲気にも慣れ、充実した毎日を過ごしております。日頃の感謝の気持ちをこめまして、ささやかな品ではございますが、本日、洋酒の詰め合わせセットをお送り致しました。
 おやすみ前にでも、召し上がっていただければ幸いです。
 それでは、どうぞお体お大事に。
 7月25日
 本田友美

〈たて書き・よこ書きにつきまして〉

手紙文1部は、たて書き文章は2枚1組、よこ書き文章は1枚作品または2枚1組で出品可。たて書き文章1枚のみは出品不可です。

【注】

- 手紙文1部・2部ともに参考文です。
- 文体は口語文（日常の現代語文）とします。
- 仮名表記は現代仮名遣いにこだわらず、旧仮名遣いでも可です。
- 体裁は実用的なものの範囲内で自由とし、一般的な書式で仕上げてください。
- 用紙は縦に使用してください。罫線の有無は自由です。
- 行の字詰めは上記の通りでなくてもよい。
- 手紙文1部の作品は、台紙（270×375mm以内、色は自由）に貼り付けて出品してください。
- 出品票一式を作品表面の左上にクリップでとめてください。



【作品貼付例】

四隅を軽くのりづけしてください。
 両面テープ不可。

●手紙文2部「規定部10級・新規く1級」

(用紙八ガキ判Ⅱ約14・8×10cm、たてに使用)

〈選文自由〉

〈参考文献S〉 森 翠香理事選文・書

この度はお忙しい中
お心づくしの品を
お贈りいただきまして
誠にありがとうございます

この参考文は約68％に縮小しています。
約146％に拡大するとはば原寸の大きさになります。

●筆ペン1部「筆ペン部推薦く師範」

(用紙B5判Ⅱ約25・7×18・2cm、たてに使用)

〈課題T／行書〉

秋山紅華常任理事選文・書

したたり止まぬ目のひかり
うつうつまわる水ぐるま
あおぞらに
越後の山も見ゆるぞ
さびしいぞ

室生犀星「寂しき春」を○○かく □

この課題は約50％に縮小しています。約200％に拡大するとはば原寸の大きさになります。

室生犀星「寂しき春」
本文は現代表記に改めています。

●筆ペン2部「筆ペン部準初段〜五段」

(用紙B5判Ⅱ約25・7×18・2cm、たてに使用)

〈課題Ⅱ／行書〉

洪田雪絵理事選文・書

松原遠く消ゆるところ
白帆のかげは浮かぶ
千しあみ浜に高くして
かもめは低く波にとぶ

○ ○ かく □

童謡「海」

この課題は44％に縮小しています。約230％に拡大すると原寸の大きさになります。

●筆ペン3部「筆ペン部10級・新規〜1級」

(用紙A5判Ⅱ約21×14・8cm、たてに使用)

〈課題Ⅴ／楷書〉

田尻清峰理事選文・書

雪とけて
村一ぱいの
子どもかな

一茶の句を ○ ○ かく □

小林一茶の句『俳句歳時記 第四版増補 春』(角川文庫)

この課題は約51％に縮小しています。約195％に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。

●通信教育部「通信教育受講生・修了生」

(用紙八ガキ判Ⅱ約14・8×10cm、たてに使用)

〈課題 W〉

田中鳴舟会長選文・書

落つるなり

天に向かつて

揚雲雀

漱石の句を○○かく□

夏目漱石の句「漱石俳句集」(岩波文庫)

この課題は約73%に縮小しています。約137%に拡大するとほぼ原寸の大きさになります。原文の句読点を省略しています。

揚雲雀 (あげひばり)

著作権につきて

「ペンの光」自由作品部ならびに全日本ペン書道展覧会出品作品等、ペン字作品全般につきて、著作権の遵守をあらためてお願いいたします。

存命もしくは没後70年未満の作家(訳者含む)の文芸作品(詩、小説)や歌詞は著作権が保護されており作品の題材として引用し制作する場合は著作権者(著作者本人または著作権継承者、著作権管理団体)の許可を得る必要があります。著作物利用の申請手続きは、出品者各自が行ってください。許諾を得られた上でご出品ください。許諾の得られていない出品作品は展示及び本誌に掲載できません。また、著作権法に抵触した場合の損害賠償等は出品者が対応するものとし、主催者は一切関与いたしませんのでご注意ください。

▶書籍を作品にされる場合

日本文藝家協会 作品1件につき1,100円(税込・著作権使用料)
<http://www.bungeika.or.jp/procedur.htm>

▶音楽(歌詞)を作品にされる場合

一般社団法人 日本音楽著作権協会(JASRAC) 作品1件につき
3,300円(税込・著作権使用料)
<https://www.jasrac.or.jp/info/create/publish.html>

